

# 平成29年度 学校評価表

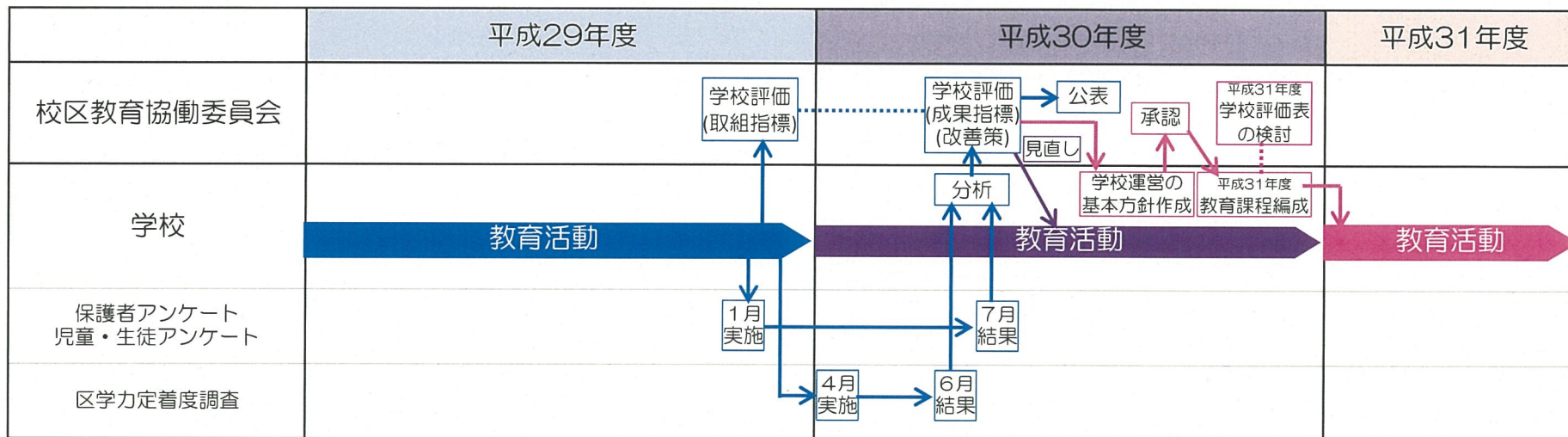
品川区立台場小学校 校長 中村 太郎  
 台場小学校校区教育協働委員会 委員長 酒井 朗

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正 平成30年3月30日教育長決定要綱第6号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

- (1) 学力に関すること。
- (2) 人間性や社会性に関すること。
- (3) 体力・健康に関すること。
- (4) いじめ防止の取組に関すること。
- (5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※平成29年度の学校評価が平成30年度および平成31年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



評価項目1 (学力に関すること)

重点目標		○各教科の学習内容で、基礎基本となる知識や技能の定着を図る。 ○自ら学ぼうと意欲、学習態度を大切にして、子どもたちの学習に取り組む姿勢を全校体制で構築していく。 ○教師の指導力を向上させる。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	区学力定着度調査では、各問題の習熟基準を各学年80%以上、上回るようにする。	国語・算数については、平均正答率が、ほぼ習熟基準と同程度。社会・理科が下回っている。	C	学力調査の結果を分析すると、社会科・理科ともに、知識理解の定着が不十分であることが分かった。社会科では、地図記号や社会的な用語の定着を図るために、反復的な学習や資料の見方を提示し、基本的な資料の読み取りが行えるようにする。理科では、実験・観察といった体験的な活動を今後も取り入れ、結果からわかることを理科で学習する用語を用いて記述させたり、説明させたりしていくことで、知識理解の習得を図る。
	・個に対応した指導を行うために、算数少人数指導や放課後の個別学習を充実させる。特に放課後に関しては、学年毎に「個別学習の時間」の曜日を決めて取り組む。また、隔週の土曜日にも活用し、副担任もT.Tとしての指導や教材作成にあたり、繰り返しの学習を行う。	・算数少人数指導を2学級3展開、1学級2展開で行った。補習日を設け、基礎基本の学力が定着していない児童に対応した。 ・担任レベルでは行っているが、補習日、補充日を計画的に行っていく。 ・補習や放課後をつかっている個別指導を続けているが、学力の定着に課題がある。学年、副担任、家庭との連携を図り個々に対応できるようにしていく。	B	
	・登校したらずぐ取組む帯学習(朝学習)で、学習習慣の定着を図るとともに、漢字の読み書きや四則計算の知識や技能の定着、読書活動などを推進する。 ・学期末テストにおいて、平均80%以上とする。	・朝学習の時間を設定し、取り組んでいる。始まりが、遅くなり、15分取れないことがある。 ・学期末テスト概ね、85%を達成できた。	B	
②	各学年、学習が楽しいと思える児童をクラスの80%以上とする。	学年が上がるにつれて、学習が難しくなり、学習に対する意欲を高めることが難しい児童が増える。	B	・台場メソッドの流れを算数以外にも活用していくことを年度当初に確認する。 ・ICTの活用を始め、台場メソッド、対話的活動を通し、児童が学習が楽しいと思えるような学習指導や学習環境の工夫をしていく。
	・「話を聞く」「授業の始めと終わりのあいさつ」「鉛筆の持ち方」「鉛筆を削る」等、学習指導基準(台場スタンダード)を徹底する。	全校朝会での話の聞き方はよくなってきている。授業のはじめと終わりのあいさつにも取り組んでいる。授業規律がまだ身に付いていない学級あり徹底できていない。	C	
	・各教科、領域を通して、問題解決学習(課題把握、予想、自力解決、話し合い、まとめ、習熟・活用)の学習展開を実施し、(台場授業メソッド)書いたり説明したりする思考力や表現力を育てる。	・台場メソッドの活用を算数だけではなく他教科でも実践できるようにしていく。校内研究で各教科に取り入れた実践を研究している。	C	
③	教師の指導力を向上させる。	・教員同士が授業を見合ったり意見を交換できたりする機会を増やしている。特に若手教員の育成という視点で考え、もっと中堅以上の教員の授業公開の機会を増やしている。	B	・分科会の中で、指導案検討等を進めるときに、ベテラン教員や中堅教員が授業を見せたり、助言や指導を行ったりすることで、情報交換を充実させていく。また、研究内容を分担し、全員が研究に参加できるようにする。若手教員は、自分から多くの授業を参観できるように積極的に声を掛け、ベテラン教員も自分の授業を若手教員に積極的に公開する。 ・自己申告の観察授業を活用し、教員同士が授業を見合ったり、意見を交換したりできるような機会を設定する。
	・学習のねらいを児童に提示して、理解させている。	・学習のねらいを必ず板書し、1時間の学習のねらいを児童に理解させている。	B	
	・「聞く」「考える」「書く」「発表する」「話し合う」「まとめる」など様々な学習活動を授業に導入する。	・論理的思考を育てるために、調べて分かったことを話し合ったり、発表させたりしている。	B	
	・具体物を提示したり、視聴覚機器を利用したりなどの授業の工夫をしている。	・視聴覚機器を効果的に活用し、児童が、興味をもって、主体的に学習できるように工夫している。	B	
	・研究授業、研修、品川学園との合同研修など研究・研修に努める。	・お互いの校内研究の授業に参加したり、人権尊重教育の合同研修を行ったりしている。	B	

## 評価項目2 (人間性や社会性に関すること)

重点目標		○各教科、市民科での授業を中心に、日常生活や学校行事、保幼小交流活動の中で、人権尊重教育を通して自他共に大切にし、相互に認め合える態度や能力を育て、支持的風土を構築する。 ○家庭、地域、保育園・幼稚園、連携中学校と連携し、規範意識の醸成と基本的な生活習慣の定着のために、重点化した取組を推進する。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	人権にかかわる知識や態度を身に付け、自己を大切にするとともに、友達や、異学年・園児に対して、優しく接している。	・低学年や園児に対して、優しく接している。友達に対しては不十分などところがある。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の会で、担任が人権に関する話をしたり、児童が人権の大切さを実感できるような機会を与えたり、引き続き人権に関する学習を進めていく。</li> <li>年間指導計画に基づき、何月何日を実施するかを決め計画的に実施する。</li> <li>保幼小連携は本校の特徴の1つであるので、今後も力を入れて取り組んでいく。</li> </ul>
	・各教科、市民科において、人権教育指導計画を精選しながら人権に関わる知識や価値・態度、技能を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分も大事、友達も大事、認め合い」を言える。言葉だけでなく、行動も身に付けさせたい。</li> <li>清掃時間に上級生の指示を聞ける子、聞けない子がいる。子ども同士であっても、年長者に対する態度は指導していく。</li> </ul>	B	
	・異学年の縦割り班による「清掃・給食・遊び」活動を推進したり、のびこ園台場保育園、幼稚園や近隣の八つ山保育園との交流活動を行ったりして、自己有用感を高め育成する。	・園児との交流活動を通し、自己有用感を高めることができた。	A	
②	学習規律・生活規律を守ることを、全児童の100%が意識して学校生活を送る。	・学習規律、生活規律を100%意識できていない。。今後も根気よく指導していくことが必要。	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>下駄箱の靴がそろっていないかったり、帽子をかぶらずに下校する児童が目につくので、学校での生活規律の乱れについて、年度初めの保護者会で、家庭にも学習規律を配布し、協力して進めるようにしていく。</li> <li>これまで印刷することになっていたわけではないが、週番長が学級数分印刷し、各学級に配布。各学級で掲示する。</li> <li>朝会時の校長講和で、月一回、学習規律・生活規律の振り返りを行っていく。</li> </ul>
	・週の生活目標に加え、学級ごとに週目標を設定し繰り返し評価しながら、「校帽、あいさつ、まもるっち」の徹底、「正しい廊下歩行」、「時と場に応じた言葉遣い」「時間を守る」「係活動や清掃活動」等に取組む児童の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>週目標を設定、評価しながら指導を行っているが、児童の取組姿勢には、課題がある。</li> <li>学習規律、生活規律を意識している児童が少ない。正しい廊下歩行、言葉遣い、時間を守ることなど、週目標の達成がしっかりとできるように週番活動を徹底する必要がある。</li> </ul>	C	
③	自分からあいさつをしたり、場に応じたことばで受け答えができています。	・主体的に挨拶したり、場に応じた言葉遣いには課題がある。	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校経営重点目標として、丁寧な言葉遣いを掲げている。今後も、教員が率先して丁寧な言葉遣いに取り組んでいく。</li> <li>場に合った丁寧な言葉遣いができるように、全校朝会や学級指導を通じ、指導していくとともに、不適切な言葉遣いをしている場面があった場合は、その場で指導を行う。全教職員で共通理解の元、同じ指導をしていく。</li> </ul>
	・教員が率先して、挨拶に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員が率先して挨拶をするだけでなく、言葉遣いにも気をつけたい。</li> <li>全学年あいさつ隊を行っている。児童会でもあいさつを進んで行うように呼びかけている。</li> </ul>	A	
	・全学年、あいさつ隊の活動を行ったり、委員会活動で児童が、自主的なあいさつ推進を行ったりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学級で、2週間という期間を毎朝、校門に立って、あいさつを行う、あいさつ隊の活動を計画的に行っている。また、代表委員会でも、児童が計画し、主体的にあいさつを行う活動をしている。</li> <li>外部の人や交通安全の人にはあいさつができる。</li> </ul>	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

平成29年度 学校評価 品川区立 台場小学校  
 評価項目3 (体力・健康に関すること)

重点目標		○体育、健康教育全体計画に沿って、体育科における授業の充実を図る。 ○個に応じたアレルギー対応を適切に行い、事故防止を遵守する。 ○安全指導計画に沿って、校内外の生活、交通安全や災害、不審者対応など様々な危機を想定しての安全指導や体験的な訓練を行い、生命を守るようとする態度や知識、技能を身に付けさせる。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	都の体力調査の各種目の平均を上回る。	・50m走男子 1～4年 平均を上回る。 ・上体越し シャトルラン ソフトボール投げ 下回っている。	C	・体力テストの結果を分析して、20mシャトルラン、握力が弱いことが分かった。体力には個人差があるが、投げ方や走り方を体育授業で取り組んでいく。 また、体育の授業で学習した運動を20分休みに、子どもたちが取り組んでいけるようにする。 ・品川スポーツトライアルは、各学年・学級の実態に応じて記録も目指せる競技に取り組んでいく。取り組み方については、体育の授業の中に、競技を組み入れ、年2回の記録を図る。
	・一校一取組の「マラソン週間(学期1回)」「なわとび週間(学期1回)」「チャレンジジャンプ(月1回)」「体力向上週間(6月)」において、自己目標・学級目標を設定しその達成への取組を継続し、児童のバランスの取れた体力の育成を図る。	・品川スポーツトライアルについては、4月の時点で学級で取り組む種目を複数決め、1年間を通じて取り組めるようにする。	B	
	・東京都体力向上調査結果を分析、評価し、指導の重点や授業の改善を明らかにし、特に、体づくりの運動や水泳領域等の体育実技研修を開催し指導の充実を図る。	・体力調査の結果は、各家庭に配布した。また、体力調査結果の分析に基づき、体育の授業や体力向上週間の計画を立て、実践している。	B	
②	食物アレルギー事故ゼロとする。	・食物アレルギー件数は0であった。	A	・引き続き、食物アレルギー事故0を目指す。 ・来年度も、4月にエピベン研修を行い、事故が起こった場合に冷静かつ的確に対応できるようにする。
	・児童のアレルギー疾患に関する知識を深める研修および「食物アレルギー対応の手引き」に関する実践的な研修や事故発生時のシミュレーション研修を行う。	・「食物アレルギー対応の手引き」に関する実践的な研修や事故発生時のシミュレーション研修を4月に行った。 ・薬剤師によるエピベン講習も4月に行った。	A	
	・個に応じたアレルギー対応を適切に行い、事故防止を遵守する。	・毎月、アレルギー対応児童の保護者とアレルギー対応用献立詳細記録票のやり取りを行って、確認をしている。担任、副担任と複数の目で、確認を行っている。	A	
③	「交通に関する事故件数0件」を目指す。	・交通事故は0件	A	・学級指導、全校朝会等で交通事故防止の指導を行い、引き続き、交通事故0を目指す。 ・ヘルメットの着用について、学級指導、全校朝会等で、引き続き指導を行っていく。 ・保護者・地域の方にもヘルメットの着用を学校便り等で周知し、ヘルメットをかぶらないで、自電車に乗っている児童を見かけたら注意をさせていただくよう協力をお願いする。
	・安全指導で、交通安全教育を徹底し、交通ルールを守らせるとともに、ヘルメットの使用率を高める。	・ヘルメット着用には課題があるので継続して指導していく必要がある。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

平成29年度 学校評価 品川区立 台場小学校  
 評価項目4 (いじめ防止の取組に関すること)

重点目標		○「いじめ」という人権侵害の防止を徹底し、差異を認め合える人権教育を推進する。 ○いじめの早期発見や早期対応、解決に努める。 ○保護者、家庭と連携を密にするとともに、教育委員会や地域、関係諸機関とも協同して解決にあたる。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	生活アンケートでの「学校が楽しい」「友達となかよくしている」と回答する児童100P以上とする。	・生活アンケートで、「学校が楽しい」「友達となかよくしている」と回答する児童58P	C	生活アンケートで、「学校が楽しい」「友達となかよくしている」と回答する児童58%というのは、とてもあてはまると答えた児童だけの集計であり、それ以外の児童も大半は学校が楽しいと感じており、友達と仲良くしている。その中で、少数ながら存在する学校が楽しくない児童や友だちと仲良くできていない児童に対して、目配り良く指導・対応していく。
	・アンケートなどの結果に迅速に対応し、児童との面談を通して早期発見に努めている。	・生活アンケートの結果を受け、迅速に対応することができる。場合によっては保護者に連絡し、連携を取りながら進めている。	A	
	・児童の課題や悩み、保護者の相談に真摯に対応し、問題を解決している。	・保護者の相談に対し、迅速に対応するように心がけている。	A	
	・教職員が協力して問題解決にあたり、児童理解を深めたりする研修をしている。	・児童の課題、問題に対して、教職員全員で、情報を共有し問題解決に当たっている。	A	
②	いじめの早期発見、未然防止に努め、いじめゼロを目指す。	いじめ早期発見、未然防止に向け、担任、副担任、学年団、専科等、複数の目で児童の様子を観ている。気になることがあった場合、情報を全教員で共有している。	A	引き続き、生活指導連絡会の情報共有やスクールカウンセラーとの共通理解を図り、いじめの未然防止・早期発見に努めていく。
	・校内特別支援教育委員会の月1回の実施する。	・週1回の生活指導連絡会で情報共有ができています。スクールカウンセラーとも共通理解ができています。	A	
	・毎週金曜日放課後、生活指導連絡会を行い、児童の様子の情報交換を行い、共通理解する。	・生活指導連絡会で、児童の様子の情報交換を行い、情報を共有し、全教員で児童看護にあっている。	A	
	・個別指導計画の作成、スクールカウンセラーや巡回相談の活用する。	・個別指導計画を作成し、スクールカウンセラーや巡回相談と連携を密に取り、指導に当たっている。	A	
③	本校テーマ「自分も大事、友達も大事、認め合い」を大切にされた言動が100%の児童に浸透している。	・「自分も大事 友達も大事 認め合い」の合言葉は児童に浸透している。人権DAYの指導内容の確認していく必要がある。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分も大事 友達も大事 認め合い」の合言葉は児童に浸透している。</li> <li>・台場の児童の何を伸ばしていくのか、現時点の台場の実態を分析・考察し、その手立てとして研究を深めていく。</li> <li>・人権DAYの取り組みについて、保護者、地域に発信していく。</li> </ul>
	・月1回「人権DAY」では、人権感覚を育てる指導や活動を行う。	・月1回、人権DAYを実施し、児童登校時に人権委員会が人権について呼びかけたり、全校集会で人権意識を高める劇を通して、人権感覚の向上を目指している。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

平成29年度 学校評価 品川区立 台場小学校  
 評価項目5 (特色ある教育活動)

重点目標		○平成27・28年度人権尊重教育推進校としての成果と課題を生かして、人権課題「同和教育」授業実践を行う。 ○年間計画に沿って、オリンピック・パラリンピック推進教育活動を行う。 ○ICT機器を効果的に活用し、児童の学力を向上させる。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	人権教育の実践成果をリーフレットにまとめ、啓発を行う。	・人権教育の実践リーフレットを作成。	B	・本校児童の実態や発達段階を考慮しながら、「普遍的な視点からの実践」「個別的な視点からの実践」をさらに精選していく。 ・友達との会話、友達に対する行動を見ていると、友達だからということで、粗暴な言動が見受けられる、日常の教科等の指導や生活指導、自他を大切にするためのコミュニケーション能力をより一層高めていく。
	・年に1回以上、講師を招き、人権教育の講演を行い、児童及び、教職員、保護者の人権意識の向上を図る。	・低学年 青木さんの講演。高学年 デフサッカー、デフバレー等の方々を講師に招き、講演を行った。	B	
	・普遍的な視点の取組(「あかちゃんふれあい授業」「障害のある方との交流授業」「保育園児との交流活動」など)や個別的な視点の取組(「食肉市場で働く人々」「国際理解教育の推進」など)を通して、差別意識の解消を目指し、差異を認める態度、自己有用感の育成を図る。	・赤ちゃんふれあい授業2年2回。お肉の情報館見学、食肉市場の方々との交流授業を行って、差別意識の解消を目指し、差異を認める態度、自己有用感の育成を図った。 ・人権教育の講演や講演の前後の学習の中で、人権に関わる知識や価値観・態度の育成を行った。障害のある人とどのように接するか、人権を守ることはどういうことかといったことは子どもたちにとって理解が深まっている。	B	
②	オリンピック・パラリンピック教育の充実を図り、オリンピック・パラリンピックの精神や障害者スポーツへの理解を深める。	・パラリンピック競泳選手を読んで、講演、水泳の交流学习を行い、オリンピック・パラリンピックの精神や障害者スポーツへの理解が、深まっている。	A	・年間指導計画を基にオリパラ教育に取り組む。また、年間指導計画の周知し、全校で取り組めるようにする。
	・パラリンピアンを招いたパラリンピック種目の体験や講演会を複数回実施していく。	・パラリンピアンを招いた講演、デフバレー、デフサッカーの体験学習と年間3回実施した。	A	
③	ICT機器を効果的に用いた授業を全学級実施する。	・全学級、デジタル教科書、書画カメラ、タブレットといったICT機器を活用した授業を行っている。	B	・児童の学習意欲をより高めるために、効果的なICTの活用について授業研究を行い、実践を積み重ねていく。 ・基礎・基本の学力の定着のために、デジタル教科書を使い、全児童が、教科書のどこの部分を学習しているのか、明確に理解できるように指導を工夫していく。
	・ICT機器を授業や家庭学習の場面で効果的に活用し、児童の学習意欲を高める。とともに話し合い活動の場面で、タブレットPCやプロジェクターを活用し「相互に伝え合い学び合う協働学習」を推進する。	・タブレットを活用した授業を行い、児童の学習意欲を高めている。 ・全クラス、週3日以上ICT機器を使った授業を行っている。	B	
	・指導技術の向上・定着を図る。そのためのICT機器操作研修、模範授業研修を学期1回開催する。	・ICT模範授業研修はできなかったが、ICT推進担当教諭が授業公開を行い、タブレットを使った授業の様子を参観した。 ・外部支援員を適切に活用している。	B	
④	地域との連携を深めるために、地域行事に3回以上参加する。	区民まつり、宿場まつり、シルバーセンターまつりなど、子ども達が参加させてもらった。	A	引き続き地域の活動に学校全体で協力していく。
	・地域祭礼、区民祭り、宿場まつりの児童参加。	・教員で分担し地域行事に全教員が3回以上参加している。	A	
	・地域祭礼、区民祭り、宿場まつり、地域防災訓練、避難所連絡会議等の教員参加。	・地域の祭礼に参加。区民祭りで、4年以上の有志が台場ソランの披露。宿場まつりに5年生が参加。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成